

日本にもフェアユースを導入すべきだ

最近、日本に関して気になる問題は著作権だ。特にフェアユースとして知られている方針は様々な問題を引き起こしている。去年の12月に、東映アニメーションはTotallyNotMarkというユーチューバーのビデオ150本に対して著作権を主張した。東映アニメーションは許可なしでTotallyNotMarkが作品を使っていると信じたので、東映アニメーションの要請により、一晩でTotallyNotMarkのビデオ150本以上の動画が削除された。TotallyNotMarkが日本に住んでいなくても、東映アニメーションはTotallyNotMarkが日本の著作権に違反していたと主張する。この件で、アメリカと違って日本にはフェアユースという項目が著作権法になく、他の人の作品を使うと著作権侵害として罰されるということを学んだ。

私のようなアメリカ人から見ると、現在の著作権法、特にフェアユースがないという点は厳しすぎると感じる。フェアユースは一定の条件を満たしていれば、著作権者から許可を得なくても、著作物を再利用できるという意味だ。例えば、フェアユースでは、他の人の作品に手を加えて、新しいものを作ることができる。しかし、日本にフェアユースがないので、他の人が作ったものから新しいものを作り出すことが難しい。確かに、現在の著作権は人々の作品を盗作から守ることができる。しかし、フェアユースがないと、人々や企業が著作権を利用して、作品に対して言ってほしくないことをコメントするような事態を止めることができる。このようなことは、パロディや批評などのジャンルに悪い影響を与える。

さらに、この問題は日本への影響しかないというわけではない。世界中でマンガや映画、小説など日本のメディア作品が人気になってきているため、それらのレビューや紹介をする動画が増えている。日本の著作権は日本だけの問題ではなく、世界の問題になってきている。日本の著作権法は日本に住んでいる人にだけ適用されるわけではなく、他の国に住んでいる人にも強制される。罰しないで人々が作品を使えなかったら、原作と違って、日本のもの

についてコンテンツを作ることが難しくなる。その結果、せっかく人気が出ている日本のコンテンツに悪い影響が出るのではないだろうか。

著作権は不必要だというわけではない。でも、日本の政府はフェアユースの政策を作るべきなのではないだろうか。